

## 1. 全死因による死亡の状況

### (1) 全国の死亡の状況の年次推移

全国の粗死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)をみると、男女とも昭和 30 年代(1955)から昭和 50 年代(1975)までは、ほぼ横ばいあるいは若干の低下となっていたが、昭和 60 年代(1985)に入ってから上昇傾向が続いている(図1)。

また、令和4年(2022)の全国の年齢調整死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)は、男 1437.4、女 785.8 であり、男女とも昭和 25 年(1950)以降低下傾向が続いていたが、令和3、4年(2021、2022)は上昇している(図 2)。

昭和 60 年代から令和2年にかけて年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。

図1 粗死亡率の年次推移

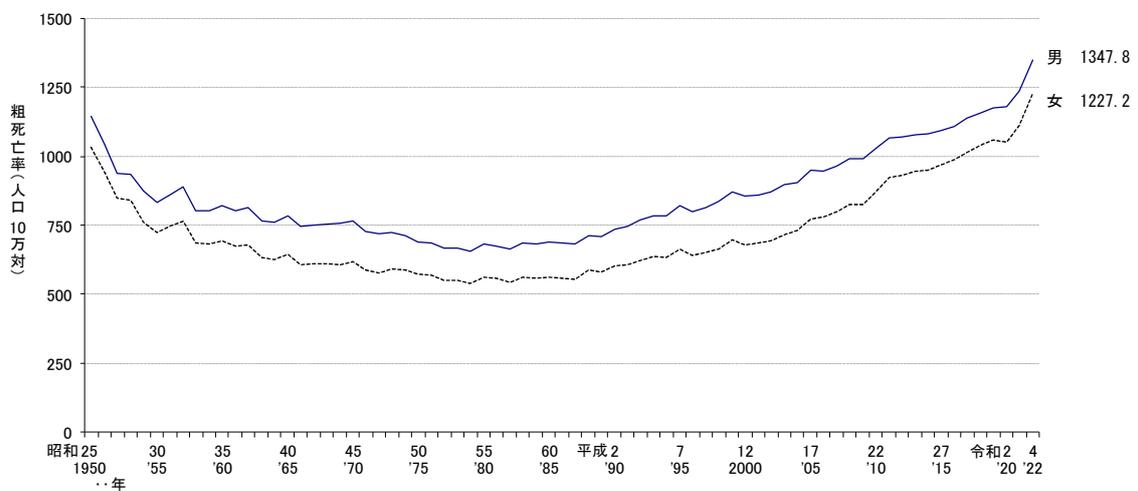
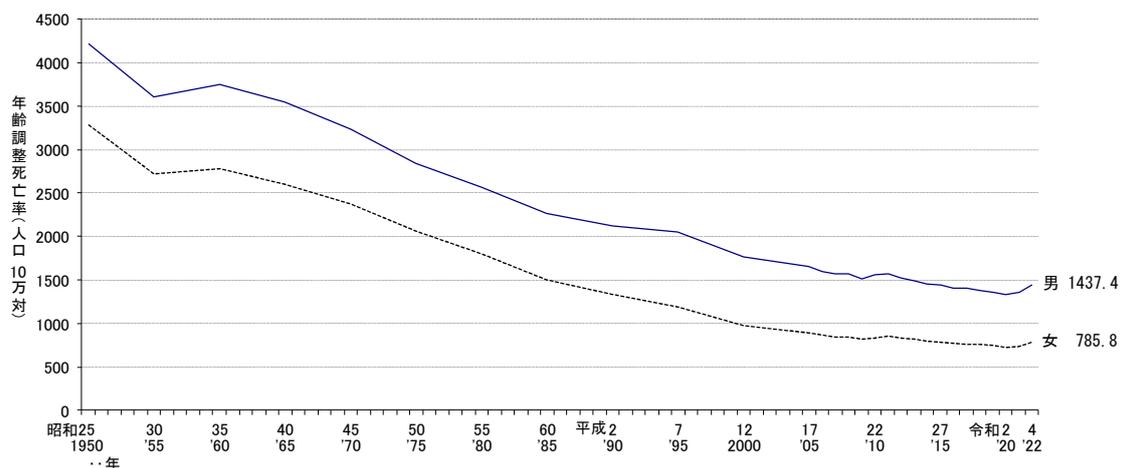


図2 年齢調整死亡率の年次推移





令和2年(2020)の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、男は長野、滋賀、奈良、京都、神奈川等で低く、青森、秋田、福島、岩手、大阪等で高くなっており、女は鳥取、沖縄、熊本、長野、岡山等で低く、青森、福島、栃木、岩手、茨城等で高くなっている。

都道府県別年齢調整死亡率を時系列でみると、男は昭和55、平成2、12年(1980、1990、2000)が沖縄、平成22、令和2年(2010、2020)が長野で最も低く、昭和55、平成2、12、22、令和2年(1980、1990、2000、2010、2020)のいずれも青森で最も高くなっている。女は昭和55、平成2、12、22年(1980、1990、2000、2010)が沖縄、令和2年(2020)が鳥取で最も低く、昭和55年(1980)が山形、平成2年(1990)が大阪、平成12、22、令和2年(2000、2010、2020)が青森で最も高くなっている。(図3-2)

図3-2 都道府県別年齢調整死亡率の推移  
—昭和55・平成2・12・22・令和2年(1980・1990・2000・2010・2020)—

